

北 九 州 市 要 望 事 項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>1 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界文化遺産登録へ向けた公的支援の推進</p>	<p>本市を含む関係自治体8県11市が一体となって取り組みを進めている「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は、極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げた、我が国の産業技術の痕跡を示す貴重な遺産として高い評価を受けており、さらに国内では初めて、稼働中の産業遺産を含む資産群の世界文化遺産登録を目指すものです。</p> <p>この「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産に登録されることにより、貴重な産業遺産を後世に残し、その歴史的、技術的、文化的な価値を世界に発信できるとともに、ものづくり大国・日本の原点を見つめ直し、成長、発展する豊かで強い日本経済の再生に大きく貢献できるものと確信しています。</p> <p>今後は、平成27年度の世界文化遺産登録へ向け、現在の制度的枠組みのもとで、国及び関係自治体とこれまで以上に緊密な連携を図りながら努力していく所存です。</p> <p>しかしながら、構成資産のうち、本市からは旧官営八幡製鐵所関連施設が候補にあがっています。当該施設は110年以上稼働している日本最古級の工場等で構成されており、企業の事業活動を妨げることなく、工場を稼働させながら世界文化遺産に登録・保全するための取り組みが必要な状況です。</p> <p>国においても、現在実施中の国際記念物遺跡会議（イコモス）による審査への対応を着実に行っていただくとともに、構成資産の管理保全に関する技術的・財政的支援、並びに稼働中の資産を保全する所有企業の負担軽減に向けた支援をお願いいたします。</p> <p>1 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界文化遺産登録の実現</p> <p>2 構成資産の管理保全に係る技術的・財政的支援</p>

北 九 州 市 要 望 事 項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>2</p> <p>「北九州市新成長戦略」推進への支援</p> <p>・ロボット産業振興への支援</p> <p>・次世代自動車産業の拠点化</p>	<p>本市では、「北九州市新成長戦略」を策定し、産学民官を挙げて経済の活性化に取り組んでおり、「日本再興戦略」の実現に貢献するものと確信しています。本戦略における以下の事項について支援をお願いいたします。</p> <p>ロボット産業振興について、平成26年3月に「北九州市ロボット産業振興プラン」を策定し、産業用ロボットの普及拡大や民生用ロボットの開発導入支援等に取り組んでいます。</p> <p>急速な人口減少や高齢社会の進展に伴う労働人口減少下において、競争力を維持・向上させるためには、働く意欲がある高齢者に長く働いてもらうことが重要です。しかしながら、加齢に伴う身体的機能の衰えにより、生産性の維持が難しい状況にあります。こうした課題は、今後、顕在化してくると考えており、ロボットテクノロジー等を活用し高齢社会に対応した開発・導入促進等のモデル事業を推進し、その成果を広く展開することは、わが国の産業競争力の強化につながると考えています。</p> <p>本市としても引き続き、ロボット介護機器の開発・導入に取り組む考えであり、モデル事業の採択等の支援をお願いします。また、中小ベンチャーにおけるロボット介護機器等の生活支援ロボットの開発を更に進めるために、国際安全規格の認証取得を支援いただくことをお願いいたします。</p> <p>また、次世代自動車産業の拠点化について、北部九州でのFCV（燃料電池自動車）の生産・開発に向けた拠点形成を推進するため、関連部品メーカーの集積、地元企業の育成、水素ステーションの普及等の環境整備を進めています。</p> <p>関連部品メーカーの誘致には、投資コスト低減に直接的に作用する施策が有効であるため、メーカーによる技術開発や設備投資に対する財政支援措置をお願いします。</p> <p>また、FCVの普及に向けて、水素ステーションの更なる整備が必要となることから、水素ステーション普及開始に向けた規制の再点検に係る工程表の着実な推進と、整備・運営に対する支援をお願いいたします。</p>

北 九 州 市 要 望 事 項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>3 北九州空港の機能 拡充</p>	<p>北九州空港は、小倉南区の周防灘沖合3k mに建設された九州で唯一24時間利用可能な海上空港です。</p> <p>近年集積が進む自動車産業や半導体産業など、北部九州の広域的な物流拠点として、経済活性化に大きく寄与するものと期待されています。</p> <p>今後、東九州自動車道の北九州－大分・宮崎間が開通することを契機に、より広い範囲からの集貨が見込まれる中、さらなる貨物便の就航や需要の増加に期待を寄せているところです。また、海上空港の利点を活かしたシー・アンド・エア輸送が可能なことから、陸上輸送が困難な長大重量貨物の取扱いも期待しています。</p> <p>物流の高速化、高度化が進む今日、空港の整備による国内及び国際航空物流ネットワークの形成・充実を図ることは、北部九州の経済活性化や広域的な物流拠点形成のためには必要なものです。</p> <p>そのためには、北九州空港を国内のみならず世界とつながる航空貨物の拠点空港として成長させていくことが必要不可欠です。</p> <p>そこで、北九州空港の航空貨物拠点化に向けた機能拡充について、以下の事項について特段のご配慮をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大型貨物専用機や長大重量貨物を搭載できる輸送機の就航に必要となるエプロン、スポット等の整備及び貨物ターミナル地区の拡張の早期実現 2 大型貨物機による安定した離着陸を確保するための滑走路3,000m化の早期実現

北九州市要望事項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>4 主要道路の整備促進</p> <p>・ 国道 3 号黒崎バイパス</p> <p>・ 都市計画道路 戸畑枝光線</p>	<p>北九州市は、西日本における物流拠点都市としての国際競争力確保に向け、港湾や空港、鉄道ターミナル駅等の拠点整備を進めてきましたが、それらの相互連携を図るためには、道路整備は不可欠です。</p> <p>国道 3 号黒崎バイパスは、本市の副都心黒崎の再生、地域産業の振興、安全で快適な地域環境の改善に欠くことのできない自動車専用道路です。これまで 5.8 km 中 5.2 km が開通し、国道 3 号の渋滞緩和や小倉都心部への速達性向上や新門司港・北九州空港等への物流の効率化が図られています。しかしながら、国道 3 号の現道や国道 200 号に接続していないため、直轄国道のネットワークが形成されておらず、黒崎バイパスの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>黒崎バイパスの開通効果を最大限に発揮させるためにも、早期全線供用に向けた「事業予算の確保」「春の町ランプの早期供用及び残る黒崎西ランプ、陣原 ON ランプとの同時並行的な進捗」をお願いします。特に、春の町ランプでの JR をまたぐ橋梁本体工事については、複数年にわたる大規模な施工となるため、こうした工事に本格的に着手出来るよう、来年度の当初予算において重点的な予算の配分をお願いいたします。</p> <p>また、戸畑枝光線は、北九州都市高速道路、若戸トンネル、国道 3 号黒崎バイパスと一体となり、企業進出が進む響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成する道路です。しかしながら、この環状部の戸畑枝光線がミッシングリンクとなっているため、自動車専用道路ネットワークの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>市内各拠点間の連絡を強化し、高速性・定時性の向上、市街地及び路線周辺地域における交通混雑緩和、都市高速道路ネットワークにおける代替ルートの確保、災害時の緊急輸送や救助救援活動の基幹道路網の構築するため、戸畑枝光線の早期整備推進が必要です。</p> <p>以上の道路整備事業の整備促進及び整備財源の安定的な確保につき</p>

まして、特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。